（政務活動費用）　　（様式１）

出　張　報　告　書

令和５年８月８日

釧路市議会議長　畑中　優周　様

会 派 名　市民連合議員団
代表者名　岡田　　遼　　印

次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受　命　者	岡田　遼、板谷　昌慶、木村　勇太、宮田　団
出　張　先	帯広市
期　　間	令和５年７月３１日～令和５年８月１日（２日間）
用　　務	道東６市・市議会議員研修会
調査（研修）結果等の概要	別紙参照
備　　考	

注）１　資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書（原本）とともに会派で保管すること。

２　調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

会派視察　2023 道東６市 市議会議員研修会

市民連合議員団
（会長 岡田 遼）

□ 「ばんえい十勝」視察報告

（報告担当：板谷　昌慶）

７月３１日（水）、平成１９年度から単独で帯広市が運営を行う「ばんえい十勝」を視察させていただきましたので、その概要を報告いたします。

当日は、現地において道東６市・市議会議員研修会　実行委員長の菊地 ルツ帯広市議から歓迎のご挨拶を受け、ばんえい振興室滝沢 仁 室長に対応いただき、ばんえい競馬の歴史･経営改善の取組概要についての説明を受け、施設内をご案内いただきました。

ばんえい競馬は、農村の娯楽として生まれた「お祭りばん馬」が、始まりと言われています。昭和２８年に帯広市、旭川市、北見市、岩見沢市の４つの市営ばんえい競馬が発足され、平成元年に開催４市を構成団体とする北海道市営協同組合が設立され経営の合理化を図りながら、北海道ならではの公営競技として多くの道民に親しまれてきました。しかし平成３年をピークに勝馬投票券販売額が急速に減少し、大幅な累積赤字が計上され、平成１８年４年をもって４市による競馬開催は廃止とされました。

３市が撤退を表明する中、帯広市は全国のファンや競馬関係者、市民からばんえい競馬存続の強い要請を受け、平成１９年度から単独で「ばんえい十勝」として開催してします。

しかし、単独開催となった平成１９年度から平成２４年度までの６年間は、販売額の低迷により苦しい経営状況であったが、平成２５年度以降、連勝複式の新投票方法の導入・インターネット発売の普及などの取組により、徐々に発売額を増やし、平成２３年度 １０４億円に対し、令和４年度は５５５億円の販売額となり上向き傾向ではあります。要因として令和２年から大幅な伸びがみられるが、この伸びは新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う巣篭り需要の影響が大きいと考えられています。
また、「ばんえい十勝」は世界で唯一の「ばんえい競馬」であり、最大１トンもの重い鉄ソリを体重１トン前後のばん馬に引かせ、パワー・速さ・持久力を競い合うレースであり、重いソリを引きながら、2 か所の坂を含めた全長 200m のコースを走るばん馬の姿は、迫力満点であります。また隣接する「とかちむら」は、十勝のさまざまな「おいしさ」を味わえます。直売所には、十勝の生産者から仕入れた新鮮な野菜や食

材が並び、デザートや豚丼などのご当地グルメも好評との事です。
また、有償にてレースの名前を決められるなどの、ユニークな取組も人気。

運営に関しては、帯広市ばんえい競馬検討委員会から提出された様々な提言を踏まえ、ばんえい競馬の安定的な継続開催に向けて全ての関係者が認識を一つにして取り組んでいくために、中期的な経営改善の展開方向や収支見通しなどを示した「帯広市ばんえい競馬運営ビジョン」を平成24年3月に作成し、令和2年2月に一部見直しを行っている状況であります。

また、優良輓系馬生産振興事業として、輓系馬の生産振興を図るため生産者への支援を行っており、これは帯広市独自事業として、ばんえい競馬の販売収入を財源に実施され、重賞競走馬等特定のレース上位馬の生産者様に生産者賞を交付する、帯広市生産者賞（令和5年度 28,410 千円）などを導入し、広域での運営持続のための事業展開が行われている。

釧路市も今後様々な事業展開において、官民連携はもとより、事業継続の考慮も重要であり、人材確保や環境整備を考慮することが重要であると感じたところであります。

また、今回の視察を通して、コロナ禍からの脱却の視点を少し変えて注視することも重要だと気づかされました。釧路市の人口減の課題からも釧路市での新たな観点での事業展開により経済の活性化や働く場所の確保に繋がるような環境づくりに取組んでいきたいと考えます。

以　　上

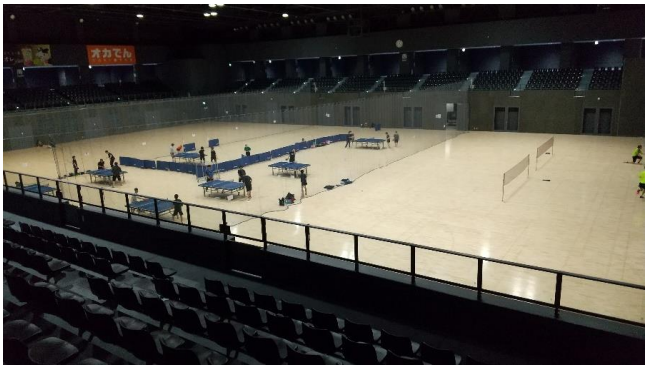
□　北海道帯広市：帯広市総合体育館（よつ葉アリーナ十勝）視察

（報告担当：木村　勇太）

市民連合議員団は、2023年7月31日（月）午後3時30分より、帯広市総合体育館（以下よつ葉アリーナ十勝）を訪れ、現在までの経緯についてお話を頂きました。

まず、よつ葉アリーナは、旧帯広市総合体育館を解体し、敷地面積 27,131.18 ㎡、延べ床面積 14,848.33 ㎡、建築面積 8,689.70 ㎡とし、延床面積を 2.5 倍に整備さ

れた、北海道では3番目に大きい体育館となり、2020年2月29日より開館された施設となります。事業名を帯広新総合体育館整備運営事業とし、帯広市によるPFI事業方式を採用しております。



よつ葉アリーナ十勝のメインアリーナは、フロアサイズ61m×46mを確保し、移動観覧席などを含む最大約2,800席の観覧席を備えた十勝管内最大のスポーツアリーナ、コンベンション施設です。全国大会やプロスポーツやコンサート、コンベンションなど、様々な利用に対応可能です。その他にも個人・少人数のグループでのスポーツ活動などにご利用できるサブアリーナ、柔道・剣道・空手やアーチェリーなど、多目的にご利用できる多目的室、健康のための体力作りと、スポーツのための基礎体力作りの支援を行い、男性・女性を問わずソフトからハードトレーニングに対応できるマシンを備え、トレーナーが常駐されているトレーニング室、一周275mのランニングコース、エアロビクスやダンス・ヨガなどのシェイプアップ・コンディショニングプログラムや卓球が行えるスタジオ、最大100名収容可能な研修室、最大24名収容可能な会議室などがあります。さらに、0歳からも利用していただくために幼児室/キッズコーナーも整備されており、150名～200名が収容可能となっており、視察に伺った際も、たくさんのお子様連れのご家庭がご利用されておりました。

利用可能な施設が様々あり、ご利用者数については、2020年度では、236,879名、2021年度では、257,825名、2022年度では、354,206名となっており、2023年度には、約400,000名を達成する見込みとなっておりました。

また、施設の運営を行っている株式会社オカモトの職員数は、運営に5名、維持に1名と施設規模を考えると少ない人員で稼働しているようですが、こちらは、今までの指定管理者としての経験を活かし、少人数の職員で維持・運営が行えるよう整備を行っているとのことでした。

このようによつ葉アリーナ十勝は、市民とオリンピアンが触れ合うことができる規模の施設として整備されており、帯広管内でスポーツを行っている方々にとって、今後の競技意欲の向上、自分自身の能力や才能に気付き、自己肯定感を高めることができ、成功体験や他の仲間からのサポートにより、自身の向上につながり素晴らしい施設であると感じました。釧路市にとっても今後の展望に向け大変良い勉強となる視察となりました。